

株式情報 (2010年6月30日現在)

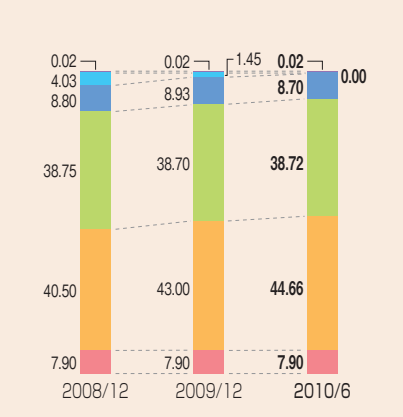
株式の状況

発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式の総数	31,931,900株
株主数	9,748名

株式の所有者別状況

	2008/12 (2008年12月31日現在)		2009/12 (2009年12月31日現在)		2010/6 (2010年6月30日現在)	
	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)
証券会社	6	6,900	8	5,946	8	5,300
外国人	3	1,289,200	5	462,400	1	100
金融機関	16	2,808,362	17	2,851,062	17	2,776,562
その他国内法人	69	12,371,466	73	12,358,766	79	12,363,866
個人・その他	7,512	12,933,798	8,840	13,731,328	9,642	14,263,410
自己名義株式	1	2,522,174	1	2,522,398	1	2,522,662
合計	7,607	31,931,900	8,944	31,931,900	9,748	31,931,900

株式の所有者別構成比率の推移 (単位：%)



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
基準日	定時株主総会の議決権 12月31日
	期末配当金 12月31日
	中間配当金 6月30日
	(中間配当を実施する場合)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (証券代行事務センター) TEL.0120-78-2031(フリーダイヤル)
同取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
公告の方法	電子公告の方法により行います。 但し、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL	http://www.joyfull.co.jp/
上場取引所	福岡証券取引所

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 「配当金計算書」について
配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。
*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

もっとうれしいジョイフルへ。

Joyfull

Restaurant

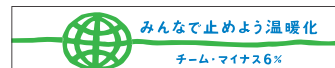
Interim Business Report 2010

第36期 中間報告書

2010年1月1日～2010年6月30日



株式会社ジョイフル

〒870-0141 大分県大分市三川新町一丁目1番45号
TEL.097-551-7131(代)

「すべては、お客様の笑顔のために」
 ジョイフルらしいアイデンティティで、
 お客様にお値打ち感とクオリティを感じて
 いただける商品開発とサービスをご提供
 してまいります。



厳しい経営環境ながら、全社一丸となった経営努力の実践が、
 予想を上回る業績を達成した原動力となっています。

当第2四半期連結累計期間における外食業界は、景気の先行き不透明感から、依然として消費者の生活防衛意識が強く厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中で、私たちジョイフルは昨年に引き続き、「お値打ち感を主とした商品の提供」「お客様視点に立ったサービスの実践」というビジネスモデルの追求に取り組み、当初の予想を上回る業績を達成することができました。

これは、昨年からの「お客様第一」という原点回帰のスローガンのもとに社員の意識改革を行うことで、全社一丸となった経営努力を実践した結果だと考えています。

客数および客単価ともに前年同期を上回った結果、売上が前回発表予想より2億7千5百万円増加しました。

当第2四半期連結累計期間における売上高は、直営店の客数、客単価ともに前年同期を上回ったことから、前回発表の予想より2億7千5百万円増の293億1千5百万円(前年同四半期比1.2%増)を達成しました。

また、営業利益は11億1千9百万円(前年同四半期比160.8%増)、経常利益は10億7千8百万円(前年同四半期比184.5%増)、四半期純利益は6億2千7百万円(前年同四半期比89.9%増)となりました。

店舗数につきましては、1月、3月、6月に各1店舗、4月、5月に各2店舗のFC7店舗を出店しましたが、3月、5月、6月に各1店舗の直営店の退店を行ったことから、当第2四半期連結累計期間末における店舗数は712店舗(直営659店舗、FC53店舗)となりました。

なお、通期の連結業績につきましては、平成22年2月8日に公表いたしました売上高600億2千万円、営業利益22億3千万円、経常利益21億3千万円、当期純利益9億8千万円、1株当たり当期純利益33円32銭を予想しています。

核商品である「とろけるチーズインハンバーグ」をはじめとする
 新商品の開発と販売を実施しました。

商品施策では、確かな品質と衛生管理をベースに、徹底した「おいしさ」へのこだわりから「何度も食べたくなる商品」の開発に取り組み、「ハーフパウンダーステーキ」や「とろけるチーズインハンバーグ」といった商品を生み出すことができました。

核商品である「とろけるチーズインハンバーグ」を中心としたグラนด์メニューの改定を3月と6月に実施。5月には、モーニング&ランチメニューの改定を行うとともに、1月と6月の季節フェアの展開および、期間限定商品として2月と4月には「ハーフパウンダーステーキ」の販売を行いました。これら人気商品の販売が、業績に大きく貢献する結果となりました。

営業施策においては、「自立した強い店長の育成によるお客様に喜ばれる店作り」と既存店舗の改修など店舗づくりを中心に取り組みました。

営業施策では、昨年来から取り組んでいる店長・SV(スーパーバイザー)制度の一層の強化とQSC(良い品質・良いサービス・清潔な環境)の改善活動に加え、今期は「自立した強い店長の育成によるお客様に喜ばれる店作り」の推進と、店内環境整備の観点から既存店舗の改修に取り組みました。

私たちジョイフルは現状に満足することなく、商品、営業における施策の継続的推進をベースに、「お値打ち感を主とした商品の提供」「お客様視点に立ったサービスの実践」という当社のビジネスモデルをさらに追求し続けることが重要だと考えています。

私たちの存在意義を確かなものにする経営を今後も継続してまいります。

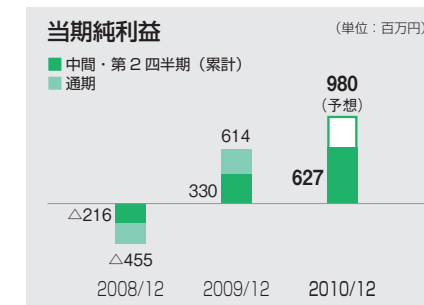
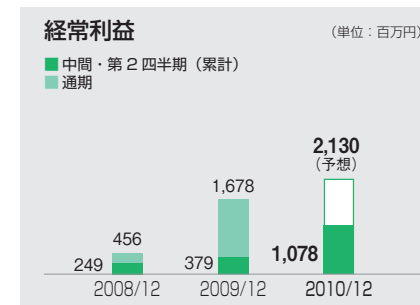
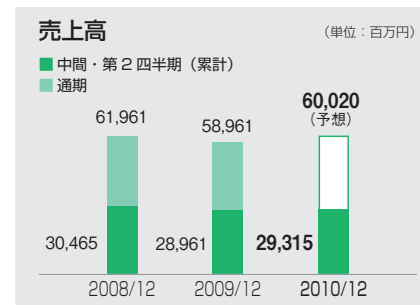
私たちジョイフルの存在意義は、「地域社会に貢献すること」「お客様に対してお値打ち感がある商品を提供すること」「お客様に楽しい空間を提供すること」そして、「お客様に満足していただくこと」です。こうした当社の存在意義はもちろん、創業期よりジョイフルとともに成長してきた一人として創業精神を強く胸に刻み、強い信念を持って今後の経営にあたる所存です。

株主の皆様におかれましては、私たちジョイフルの業績向上と将来にわたる企業価値の増大にご期待をいただき、今後ともなお一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2010年9月
 株式会社ジョイフル

代表取締役社長 児玉幸子

連結業績ハイライト



(注) 前期より四半期決算開示制度にともなう会計基準の変更により、第2四半期連結累計期間の業績について掲載しております。2008年12月期の数値は参考数値として掲載しております。

当社では、2010年において、「お客様第一」「原点回帰」の合言葉のもと、上期においてさまざまな施策に取り組んでまいりました。

お客様の再来店率をアップさせ、「客数」「売上高」を向上するための施策

● 商品力の強化

- ★ 核商品の開発と既存商品のブラッシュアップ
- ★ マーケティングリサーチにもとづく商品開発
- ★ 自社工場での主力商品製造強化による原価低減

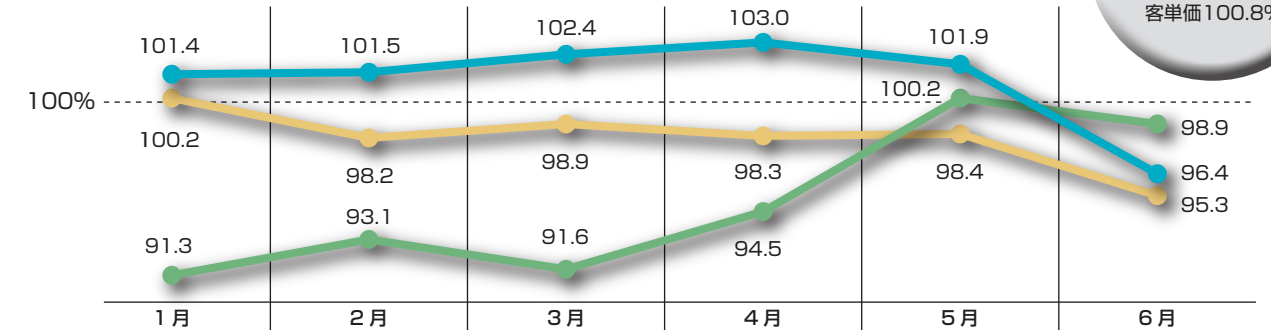
● 従業員能力の強化・店舗状態の改善

- ★ 店長・SV(スーパーバイザー)制度の一層の強化
- ★ QSC(良い品質・良いサービス・清潔な環境)の改善活動
→「自立した強い店長の育成によるお客様に喜ばれる店作り」の推進



全店売上高前年比の月次推移

● 2009年(当社) / ● 2010年(当社) / ● 2010年日本フードサービス協会発表：ファミリーレストラン 全店売上高前年比



上期実績(全店前年比)
売上高101.2%
客数100.4%
客単価100.8%

収益力向上のための具体的な取り組み

● 「お値打ち感」のある「核商品」を開発

「とろけるチーズインハンバーグ」(3月～)、「ハーフパウンダーステーキ」(2月～、4月～ ※期間限定)といった人気商品を投入しました。

● 戦略的なマーケティングリサーチによるタイムリーな『メニュー改定』を実施

お客様ニーズを反映させた「グランドメニュー」「モーニング&ランチメニュー」「フェアメニュー」の改定を行いました。

● 『プロモーション活動の展開』『生産効率の向上』『QSCの向上』を推進

- ★ 各種プロモーション活動を通して、お客様への来店動機の訴求を行いました。
- ★ 人気商品を自社工場で製造することにより、生産性と利益率を向上しました。
- ★ 自立した強い店長による店舗QSCの改善活動を通じ、店舗の収益力向上に努めました。



お客様によりご満足いただける品質と価格を追求した「お値打ち感」のあるメニューを投入するとともに、グランドメニュー、モーニング&ランチメニューなどの改定を行いました。

新シリーズ

「ハーフパウンダーステーキ」

2010年2月3日のジョイフル福岡警固公園前店での先行販売に続き、2月9日より、1ポンドの半分＝約230gのリブロース肉を使ったボリュームたっぷりの「ハーフパウンダーステーキ」を3月9日までの期間限定で全国販売しました。「ハーフパウンダーステーキ」は、1日平均2万食以上の爆発的人気商品となり、発売から10日間で20万食を突破。限定販売を惜しむ多くのお客様の声にお応えするため、2010年4月20日～5月11日の期間限定で第二弾の販売を実施しました。また7月16日より、約1ヵ月間の期間限定で、ハーフパウンダーシリーズの第三弾となる「シャリアピンステーキ」の販売を行いました。一般的には高級品として扱われる「シャリアピンステーキ」は、メニューラインナップするお店も少なく、日常的に食べることが出来ないメニューです。



核商品の開発

「とろけるチーズインハンバーグ」

「とろけるチーズインハンバーグ」は、当社が自信を持ってお勧めする安心、安全の自社工場製品です。2010年3月6日～3月9日の10店舗限定の先行販売に続き、3月9日から全国販売を開始。販売直後から1日平均3万食以上、1ヵ月で100万食を突破するという爆発的人気商品となりました。大自然の恵みをふんだんに受けた美味しい100%ビーフを使用したこだわりのお肉は、ナイフを入れるとジューシーな肉汁があふれ出し、ぎっしり詰まるとろけるチーズとの相性が抜群です。



メニューの改定

春のグランドメニュー

本格的なこだわりの味「とろけるチーズインハンバーグ」を携えた「春のグランドメニュー」改定。2010年3月9日より「春の新グランドメニュー」の販売を開始しました。黒皿とオーバル皿を投入することで見た目の付加価値をアップし、お値打ち感を向上しました。メニューの中心には、「とろけるチーズインハンバーグ」を据え、「洋食」「和食」「中華」「イタリアン」すべてのカテゴリーにおいて、専門店以上の本格的な味を追求したラインナップとしました。

夏のグランドメニュー

大好評の「夏フェア」と併せ、夏を美味しく過ごす「夏の新グランドメニュー」改定。2010年6月29日より「夏のグランドメニュー」の販売を開始しました。発売から3ヵ月間で200万食を突破した「とろけるチーズインハンバーグ」をはじめ、沢山の復活を望む声をいただいたオ리지ナルカレーも3種類ご用意。このほかにも、丼類やデザートといった夏に食べたい魅力的なメニューもラインナップしました。

モーニング&ランチメニュー

毎日の食事にジョイフルで楽しみたいというお客様から、「モーニング&ランチメニュー」のリニューアルの要望が寄せられました。2010年5月11日より、モーニング&ランチメニューをリニューアルしました。当社の主力商品である人気のハンバーグを、毎日のランチや昼膳のいづれかにラインナップ。お客様の選択肢を広げるとともに、新しく加わった「チーズハンバーグカレー」「チキンコブステーキ」「鶏の唐揚げのキンピラごま和え膳」など、これまでジョイフルをご利用いただいていたお客様にも、「毎日飽きない」「新鮮さ」メニューラインナップを目指しました。

フェアの開催

冬フェア

心も体も暖まる真冬のごちそう「サイコロステーキフェア」を開催

2010年1月12日より、真冬のごちそう「サイコロステーキフェア」を開催しました。寒い冬をアツアツの鉄板料理で心も体も芯から温めてもらいたい。そんな想いを込めたフェアでは、ジョイフル自慢の「サイコロステーキ」が美味しさも、ボリュームもアップ。日頃のご愛顧に感謝を込めて、お手頃な新価格でご提供しました。



夏フェア

中からカレーがあふれ出す「カレーインハンバーグ」が注目の「夏フェア」を開催。

2010年6月1日より、「夏フェア」を開催しました。注目、お勧め商品は、肉の配合を特別開発したジューシーなハンバーグと、中からあふれ出すカレーの相性が抜群の「カレーインハンバーグ」。ソースをかけずにお召し上がりいただける、商品本来の美味しさを堪能していただく商品としました。また、フェア期間中は「カレーインハンバーグ」に限り、プラス100円で和・洋食セットをご提供。さらに、夏を意識したスタミナ系、さっぱり系の新メニューのほか、完熟マンゴーを使用したデザートもラインナップしました。



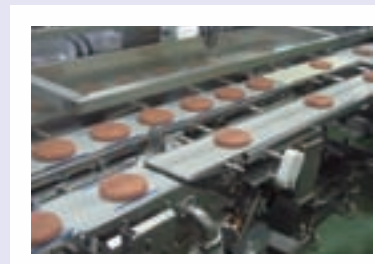
“すべては、お客様の笑顔のために”というジョイフルの原点を見つめ直し、より一層の企業努力によって、さらなる飛躍に努めてまいります。

POINT 1 店長・SV制度の一層の強化による社員教育
自立した強い店長の育成によって、お客様に喜ばれる店作りを進めます。

POINT 2 核商品の開発とブラッシュアップの継続
マーケティングリサーチによるお客様のニーズに沿った商品開発と既存商品のブラッシュアップを進めます。

POINT 3 業務効率の向上とコストコントロール
自社工場での主力商品製造強化による原価低減、また人員配置や店舗オペレーションの見直し等により業務効率を向上させます。

※フェア情報
8月～10月の「秋フェア」、
11月から「冬フェア」を開催する予定です。



2010年下期IRカレンダー

本年度下期の主なIR活動のスケジュールとして、下記を予定しています。ご参照の上、今後も引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

- 2010年11月中旬／第36期第3四半期決算発表(決算短信開示)
- 2011年2月中旬／第36期決算発表(決算短信開示)
- 2011年3月下旬／第36回定時株主総会開催

ホームページのご紹介

当社の詳しいIR情報につきましては、下記のアドレスからご覧いただけます。決算短信、有価証券報告書、事業報告書などの開示書類はもちろん、売上高状況の月次データ(速報値)も掲載いたしました。

ジョイフル IR

<http://www.joyfull.co.jp/ir/>

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

科目	前期末 (2009年12月31日現在)	当第2四半期末 (2010年6月30日現在)
資産の部		
流動資産	5,394	5,271
固定資産	23,795	23,114
有形固定資産	18,173	17,700
無形固定資産	108	101
投資その他の資産	5,513	5,312
資産合計	29,190	28,385
負債の部		
流動負債	8,546	8,387
固定負債	9,517	8,533
負債合計	18,064	16,921
純資産の部		
株主資本	11,154	11,487
資本金	1,596	1,596
資本剰余金	2,390	2,390
利益剰余金	10,937	11,271
自己株式	△3,770	△3,770
評価・換算差額等	△28	△22
其他有価証券評価差額金	0	1
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	△28	△23
純資産合計	11,126	11,464
負債・純資産合計	29,190	28,385

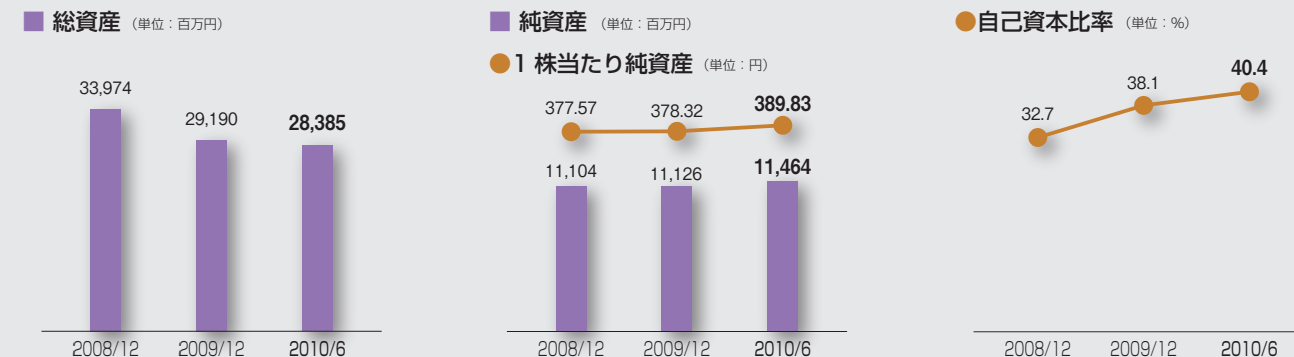
(注)金額は百万円未満を切捨表示しております。

Point 資産の部
当第2四半期連結会計期間末の総資産は283億8千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億4千万円の減少となりました。

流動資産は52億7千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億2千3百万円の減少となりました。これは主に現預金の減少18億2千4百万円、有価証券(譲渡性預金)の増加16億5千万円によるものです。固定資産は231億1千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億8千万円の減少となりました。これは主に減価償却費による有形固定資産の減少4億7千2百万円によるものです。

Point 負債の部
流動負債は83億8千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億5千9百万円の減少となりました。これは主に1年内返済予定の長期借入金の減少4億3千5百万円、買掛金の減少3億8百万円、その他(未払費用)の増加5億5千3百万円によるものです。固定負債は85億3千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億8千3百万円の減少となりました。これは主に長期借入金及び社債の減少8億1千7百万円によるものです。

Point 純資産の部
純資産は114億6千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億3千8百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加3億3千3百万円によるものです。



連結損益計算書(要旨)

科目	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
	(2009年1月1日から 2009年6月30日まで)	(2010年1月1日から 2010年6月30日まで)
売上高	28,961	29,315
売上原価	10,437	10,330
売上総利益	18,524	18,984
販売費及び一般管理費	18,094	17,865
営業利益	429	1,119
営業外収益	71	69
営業外費用	121	110
経常利益	379	1,078
特別利益	30	0
特別損失	230	20
税金等調整前四半期純利益	178	1,058
法人税、住民税及び事業税	74	289
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	△343	—
法人税等調整額	117	141
四半期純利益	330	627

(注)金額は百万円未満を切捨表示しております。

Point 売上高
1月～5月に前年比で売上高・客数・客単価ともに100%を超える(※1月の客単価は除く)状態で推移しました。6月は売上高・客数の落ち込みが見られましたが、天候(豪雨)やFIFAワールドカップ開催等の諸要因も少なからず影響したと考えています。以上から、当第2四半期連結累計期間における売上高は293億1千5百万円(前年同四半期比1.2%増)となりました。営業利益は11億1千9百万円(前年同四半期比160.8%増)、経常利益は10億7千8百万円(前年同四半期比184.5%増)、四半期純利益は6億2千7百万円(前年同四半期比89.9%増)となりました。

Point 販売費及び一般管理費
ガス単価の上昇、店内環境改善を目的としたリニューアル工事等による増加要因はありましたが、クルー採用強化や適切な人員配置など労務管理の継続的な改善、広告宣伝活動の見直し等、主要コストのコントロールに努めた結果、178億6千5百万円(前年同四半期比1.3%減)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
	(2009年1月1日から 2009年6月30日まで)	(2010年1月1日から 2010年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,120	1,441
投資活動によるキャッシュ・フロー	420	530
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,933	△1,546
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△0
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△387	425
現金及び現金同等物の期首残高	3,304	2,622
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,917	3,047

(注)金額は百万円未満を切捨表示しております。

Point 営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果得られた資金は、14億4千1百万円(前年同四半期比28.7%増)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益10億5千8百万円、減価償却費6億1千3百万円、未払費用の増加額5億5千6百万円、たな卸資産の減少額1億8千万円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額3億8千9百万円、仕入債務の減少額3億8百万円、前払費用の増加額2億3千万円であります。

Point 投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果得られた資金は、5億3千万円(前年同四半期比26.1%増)となりました。主な内訳は、定期預金の払戻による収入6億円、有形及び無形固定資産の取得による支出1億2千8百万円であります。

Point 財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は、15億4千6百万円(前年同四半期比20.0%減)となりました。主な内訳は、長期借入金の返済による支出11億3千7百万円、配当金の支払額2億9千3百万円、社債の償還による支出1億1千5百万円であります。

(2010年6月30日現在)

会社概要

社名	株式会社ジョイフル	従業員数	1,237名 上記従業員の他にパートタイマー7,112名(8時間換算)を雇用しております。
本社所在地	大分市三川新町一丁目1番45号	資本金	15億9,659万円
大分工場	大分市三川新町一丁目1番45号	主な事業内容	「ファミリーレストラン ジョイフル」のチェーン展開
大分配送センター	大分市下郡中新地3410-1	連結子会社	株式会社ジョイフルサービス
熊本工場・配送センター	熊本県菊池市袈裟尾字下大迫445-4	役員	代表取締役社長 児玉幸子 取締役管理本部長 初田誠二 取締役商品本部長 國吉康信 取締役営業本部長 野島 豊 取締役商品副本部長 柴本 太
愛知工場	愛知県豊川市御津町佐脇浜三号地1-17		
創業	1965年6月		
創立	1976年5月		

店舗一覧

店舗ネットワーク 712店 (うちFC店舗53店 九州・沖縄・中国・北陸エリア) ※()内はFC店

